

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2872000779		
法人名	社会福祉法人 明石恵泉福祉会		
事業所名	恵泉グループホーム		
所在地	明石市大久保町大窪2813 (電話) 078-938-6988		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年11月24日	評価確定日	平成19年12月28日

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

恵泉グループホームは明石の恵泉グループ敷地の一角にあり、また敷地内には特別養護老人ホームやケアハウス、老人保健施設やクリニックがある。介護予防として、体操や体力測定、体内脂肪測定、握力、骨密度測定により、身体機能の維持や健康管理に役立てている。利用者と職員との関わりは穏やかで、ゆったりとした生活ペースで過ごされている。職員は、質の高いサービスの提供に意欲をもっているため、積極的に経験に応じた体系的な研修を受講し、職員間で共有できる取り組みが望まれる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回の評価における改善項目については、全職員でできるところから取り組みをしている。食事作りはまだ一部であるが、炊飯、おやつ作りに取り組み、五感で味わうようになってきている。また、運営推進会議における家族の声も寄せられるようになってきている。グループホームの案内板も作成している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前は、管理者一人で取り組みをしていたが、今回の評価については、常勤者4人が話し合いを持ちながら取り組み、非常勤の職員には、説明と聞き取りも実施するなど、現状の課題をより明確にするため、前向きに評価を受けようという方針で取り組みをした。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、前回の評価結果を報告し、周知を図っている。メンバーに地域との交流課題について相談したり、家族にも説明を通じて事業所の想いを再認識してもらえたり、気軽に要望が出してもらえるようになってきている。ただ、市の職員にメンバーになってもらうよう働きかけをしているが、実現されていないので、継続的な働きかけが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>家族からの意見や要望については、訪問時に聞いて会議でも検討している。全体的には、運営推進会議に出席している家族からの要望を聞くことが中心で、アンケートや定期的に意見を聞くなどは実施されていない。ホームは必要性を認識しているため、より要望や意見をだしやすい取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>法人内の行事に地域の方を招待する機会は多く持っており、老人会や婦人会とのつながりもある。しかし、地域活動に参加する機会はまだまだ少ない。ホームは課題と捉えて、運営推進会議で働きかけをしており、今後積極的な活動に取り組むことが期待される。</p>

## 【情報提供票より】(平成19年10月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 5人, 非常勤 9人, 常勤換算	4.7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	33,800 円	
敷金	有( ) 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) (375,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	231 円	昼食	609 円
	夕食	525 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

### (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック、木戸歯科、平松眼科
---------	-------------------

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもとで温かい明るい介護を目指している。今まではあまり地域に向けた取り組みをしてこれず、地域密着型サービスとなった意識はあるものの、理念として言葉にはできていない。		地域に向けた取り組みを行なう予定であり、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくことを意識した理念・方針を検討する予定であるので早期に実現が期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の詰所会議や申し送りのとき読み上げ、話し合っているが、職員個々の思いによりケアすることもある。		日々の取り組みの中で、新任、現任にかかわらず、理念の具体化について共通の目線でのケアが提供されるよう共有化が望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人内の行事に地域の方を招待する機会は多く持っており、老人会や婦人会とのつながりもある。しかし、地域活動に参加する機会はまだ少ない。		地域との交流については、今後の取り組みを事業所は意識し、運営推進会議のメンバーに働きかけをしており、今後活発に取り組むことが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前は、管理者一人で取り組みをしていたが、今回の評価については、常勤者4人が話し合いを持ちながら取り組み、非常勤の職員には、説明と聞き取りも実施するなど、現状の課題をより明確にするため、前向きに評価を受けようという方針で取り組みをした。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において前回の評価の結果を報告し、周知を図っている。会議のメンバーに地域との交流について相談したり、家族からも説明を通じて事業所の役割を再認識してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日頃の市との連携はできておらず、市の職員に運営推進会議への参加の要請等をしているが、業務の関係で応じてもらえていない。</p>		<p>サービスの質の向上を図るため、今後も介護実践等の情報交換や、事業所の理解を深めてもらうために、足を運ぶなどして積極的な関係形成の働きかけが期待される。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が訪問した時や変化のあった時は個々に報告をしている。ホールには利用者が外出されたときの様子が壁面のパネルに写し出されており、またアルバムもおかれている。</p>		<p>家族の訪問頻度によって報告の内容も変わってくることもあるので、定期的に書面もあわせて報告する検討が望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や要望については、訪問時に聞いた個人的なものは詰め所会議で検討したりして対応しており、運営推進会議の家族メンバーからの要望を聞いている。しかし、全体的なアンケートや定期的に意見を聞くなどは実施されていない。</p>		<p>家族が要望、不満をいいにくいこともあるため、無記名のアンケート等意見を出しやすい取り組みが望まれる。事業所は必要性を認識しているので、今後の取り組みが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>過去には異動が多く、ケア場面での弊害も懸念されたため、現況は、極力異動がないようにし、担当者だけでなく、職員全員が利用者把握できる体制づくりをしている。</p>		<p>職員の異動において、利用者や家族にたいして事前説明や紹介などの周知がされていないので、説明を行い家族が安心できるように取り組むことが望まれる。</p>


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
st					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修には参加し伝達講習をしているが、ホーム独自の研修の取り組みの計画はない。しかし新人職員に、認知症の理解についての研修は実施している。現任の職員は、実践における経験やトレーニングで気づきを確立しているが、新人の教育・育成のための統一的な取り組みが不十分である。		法人内研修は研修担当者が熱心に伝達講習に取り組んでいるが、ホームの職員の勤務体制の事情により、外部研修について参加しにくい状況にあるので、各職員の経験や役割に応じた研修が計画的に受講できるよう取り組みが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内外の同業者との交流はできていない状況である。		情報交換をしたり、相互に訪問しあうことにより、サービスの質の向上につなげることができるので、市内外の同業者との交流に向けて前向きな取り組みが望まれる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学や相談には応じている。他施設から入居される利用者が納得されなくて、何回も施設に足を運び1ヶ月ほど時間をかけるなどコミュニケーションをとり、馴染んでもらった事例もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日々の関わりの中で、話したり、行動の中からできる事を見出す意識を持っている。法人内の文化祭に向けて、利用者が希望した縄作りを支援し、実際にいきいきと取り組まれて作品を完成させていた。このような機会を通して職員は利用者の潜在能力を引き出す重要性を再認識し、次に作品をお正月の飾りにとすなど発展的な関わりがみられた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個別的な働きかけを心がけており、言葉にできないことを汲み取ることの周知をはかっている。しかし、職員一人ひとりの対応に委ねられている。</p>		<p>利用者個別ごとに把握するようにしているが、利用者からどのようなことを聞き取るか、聞き取った後にどのような支援を行なうか、職員間で統一できるような体制作りが望まれる。</p>
<b>の</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族、親族などの意見、要望を記録できるアセスメントシートがなく、入居時の申込書の情報程度であり、振り返りの根拠が不明確である。</p>		<p>利用者の入居時は、居宅等の介護支援専門員から提供されたメモが使われているのみであるので、アセスメントの視点が統一できるチェック表や資料の作成が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1回詰め所会議を開催し、検討している。全体的な見直しは半年に1回実施している。日々の記録はされており、健康予防体操の記録経過や職員の気づきからの記録などで見直しがされている。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ケアハウスの売店への買い物、家族がいけない場合の通院支援、利用者がほしい物があれば職員が購入してくる等している。</p>		<p>利用者の個別的な要望に応じていくことが、利用者の生活をより豊かにするので、事業所で取り組めるものを検討していくことが望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は利用者の希望に応じている。他地域の病院の通院にも、前もって家族の希望があれば職員が通院支援をしている。併設のクリニックとは、利用者の変化時はいつでも対応できる関係にある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合については、併設の認知症対応の第2特養老人ホームで対応することを、法人の体制としている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけについては法人の研修で徹底し利用者本位の対応を心がけている。利用者の個室は希望により鍵をかけている人もいる。個人情報保護規程、プライバシー保護のマニュアルもある。個人の記録は所定の場所に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、事業所内の行事以外は利用者個々のペースで、のんびりと自由に、個室で横たわる人、気の合う人と会話やぬりえをする等楽しめるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一方的に職員からしてもらうのではなく、利用者が毎食ご飯を炊いたり、準備や配膳などのできることをしてもらい、利用者同志で見守りし、片付けの手助けの場面も見受けられた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階と2階のユニットで1日おきで週3回と一応決めてあるが、利用者の希望により、毎日でも入浴できるようにしている。下着などはバスタオルでくるんで見えないように準備している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除機をかけることを自分の仕事としている人、花が好きで、花飾りを家族の協力とともにしている人など、本人の希望に沿った支援がなされている。デイルームには本が置かれており、いつでも手にとれる配慮がされている。		「文化祭などの行事があるので、できることの聞き取りを行う」といったことの気づきのみではなく、毎日の生活の中でも、生活歴を活かした役割のひろがり、楽しみごとの相談などの取り組みが期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ケアハウスの売店には買い物に出かけているが、敷地面積が広く、近所に気軽に出かけられる環境ではない。		健康予防体操の記録に取り組んでいるので、実際に外で取り組む内容も関連させて外気に触れる機会作りや、法人バスも運行しているので、利用する機会を増やすなど希望にそって外出できる体制を検討することが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階フロアは日中可能な限り施錠しないようにしているが、2階フロアは階段事故等の不安もありオートロックにしていることが多い。外に出かける意向がある利用者には、職員の対応可能な範囲で見守り、一緒に外出している。		鍵をかけていることについては職員間で話し合っている。今後も鍵をかけないケアの取り組みに向けて検討を継続することが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年2回の消防訓練を併設施設と同じ日に、事業所別に実施している。緊急連絡体制について職員は周知している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	栄養士による栄養摂取のアセスメントシートが記録されている。食事量、水分量についても毎日の記録があり、個々の状態に応じた食事提供の記載がある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有空間においては、季節感が感じられるように、花や作品で飾られている。また、温度調節や照明についても違和感を感じないように配慮している。		建物はゆったりしており、空間が広いので、利用者が次の場所に移動するのに、所々休んで腰がかけられたり、2,3人で落ち着いて、井戸端会議ができる環境作りなどが望まれる。
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	各個室は利用者の好みに応じた部屋づくりになっており、写真、仏壇、タンスなど多様な持ち込みがされており、居心地のよい環境になるよう取り組んでいる。		

 は、重点項目。